

「みえライフイノベーション総合特区」MieLIP 鈴鹿関連研究会
第6回鈴鹿病態薬学研究会



開催日：平成26年 9月 3日
会 場：鈴鹿医療科学大学薬学部（白子キャンパス）
演 題：iPS細胞が切り開くこれからの医療
講 師：中畑龍俊 先生
京都大学 iPS細胞研究所(CiRA)・副所長

人工多能性幹細胞（iPS細胞：induced pluripotent stem cell）は、難病克服、再生医療の実現化に向けて国内外で精力的な研究が進められています。中畑先生はこの講演で、CiRA および他施設で行われている iPS 細胞を用いた基礎的並びに臨床的研究の最前線について、大変分かりやすく解説してくださいました。基礎研究としては、安全な iPS 細胞の樹立法や iPS 細胞バンクの設立（特定 HLA ホモ染色体を有する iPS 細胞の作成）などについて、また、iPS 細胞を用いた臨床応用研究としては、臨床試験が近々に開始される加齢黄斑変性症や、現在研究が進んでいる筋ジストロフィー症、パーキンソン病、脊髄損傷などの神経変性疾患、自己免疫疾患や血液疾患が原因とされる小児難治性疾患に対する病態解析や疾患モデル作成、細胞移植療法などについて紹介されました。また、異種動物での臓器等の臓器作製研究の現状を紹介され、最後に、iPS 細胞利用における倫理的課題について言及され、科学者と一般市民とのコミュニケーションに基づくコンセンサスの確立が重要であることを強調されました。

聴講した約50名の参加者からは、iPS細胞の作製に関する技術的な問題や、iPS細胞の基礎医学的課題、iPS細胞の臨床応用に関する課題など多くの質問があり、充実した研究会となりました。

講演会場の風景（6103号室）

